

令和5年度
12月号

幼稚園だより



令和 5年11月30日
文京区立湯島幼稚園

「面白そう」のセンサー

園長 前田 宏子

今年の紅葉の訪れはゆっくりでしたが、園庭にも落ち葉が舞っています。子どもたちはその葉を拾って、ネックレスを作ったり、チョークで擦り出しをしたりして遊んでいます。

先日は本園の研究発表会にご参会、ご協力をいただき、ありがとうございました。区内、区外の先生方、遠方からいらしてくださった先生方もいらっしゃいました。それぞれ違った環境で保育をしていますが、どの園でも様々なごっこ遊びが展開し、その中で子どもたちは多くのことを学んでいることが分かりました。

子どもたちは楽しいことに敏感に反応します。自分が興味をもったことに全力で関わります。「これは面白そうだ」「これは楽しそうだ」「ちょっとやってみようかな」など、思いが次の行動につながります。

私の話で恐縮ですが、少し前に「和太鼓の集い」に参加してきました。この集いは和太鼓サークルが集まり、市のホールで発表し合う会でした。好きで集まっている人ばかりなので、「面白そう」「楽しそう」「やってみたい」の思いにあふれていました。特に和太鼓のプロの演奏者の方ほど、この「面白そう」に敏感に反応していたように思います。「面白そう」のセンサーに敏感に反応する人ほど、その活動を深めていくことができるのだと感じました。また、初めて会う人とも興味の対象が同じなのですぐに話に花が咲いていきます。自分が楽しいと感じることを共有できることは嬉しさが大きくなります。そして、その嬉しい瞬間に「あ、これは幼稚園の子どもたちの遊んでいる姿と同じだな」と感じました。

幼稚園ではごっこ遊びや運動遊び、製作活動、楽器遊び、飼育栽培など様々な活動を行っています。その中で子どもたちの「面白そう」のセンサーがたくさん反応してくれるといいなあとと思っています。幼児教育は環境を通して行う教育です。直接的に「やりなさい」と言うのではなく、自分で「面白そう！」と感じて動いていけるように環境を用意しています。その中で「面白そう」のセンサーが働き、自分の楽しさを十分に感じてもらいたいと思います。研究発表会に参加していた先生方からは「湯島の子どもたちはよく遊んでいますね」と言われました。「面白そう」のセンサーが敏感な子どもたちが多いのかもしれませんが。

今学期も本園の教育活動について保護者や地域の皆様にご理解ご協力をいただいたことを感謝いたします。

皆様よいお年をお迎えください。

ばら組から始まった島鬼。
気が付いたら、ゆり組の子どもたちも一緒に遊んでいます。
楽しそうなことには敏感です！

